

きょうと福祉倶楽部だより

2023年 第8号

ヘルパー研修報告

今回の研修は、現役のヘルパーであり、訪問介護ヘルパーの劣悪な労働条件や低賃金の原因が介護保険制度にあるとして、国に損害賠償を求めた訴訟をおこしたヘルパーの一人である、藤原かさんを講師に迎えお話をお聞きしました。

リモートでの研修でしたが、大変意義のある研修でした。

- ・ヘルパーは何を信じて働き続ければ良いのか
- ・施設と在宅の違い
- ・ヘルパーの専門的視点（家政婦との違い）
- ・暮らしの中で人権を守る
- ・ケア労働に生産性はないのか
- ・地球規模の介護（世界のヘルパー）



研修の感想

- ・この研修で一番思ったことは、『世界の介護を知りたい』でした。日本という国はお年寄り（弱者）を切り捨てていく社会で、ギスギスしている。その中で、介護労働者の賃金も低く心に余裕もなくなり、虐待などの問題も出てくる。悪循環だと思います。世界にはお年寄りが幸せな国もあると聞きました。そこをお手本にしたら良いのと思いました。
- ・国の介護職、お年寄りへの軽視を感じていても何も行動を起こせずに過ごしていますが、他の職業と同じように賃金や人権が守られるように裁判をして、世間にも知ってもらおうと頑張っておられる藤原さんの話を聞いてもっと良い未来が来るのでは？と希望がもてました。
- ・ヘルパーさんと家政婦さんとの違いや施設の良いところなど、今までじっくり考えることがなかったので良い機会になりました。ヘルパーさんの仕事は、働く事業所によって待遇が違うことなど、実際に登録ヘルパーとしてお仕事されている方の話が聞いて良かったです。

・よく「仕事は何をしているの？」と聞かれた時に「介護です。」と答えると「大変そう」「偉いね。」と言われます。こちらとしてはそんな事を思ったこともなく、営業や飲食、サービス業の方と何も変わらないと思って仕事をしています。どんな仕事でも辛いこと、しんどいことは必ずあるはずと。でも、ほかの職種と比べて賃金が低いのが現状で、もやもやしてしまいます。世界の介護の話や藤原さんの裁判の話がもっといろいろな人に周知されて、少しでもこの国で働く介護職の方が働きやすくなれば良いのにと思いました。

・ヘルパーの労働条件の悪さも訴えながらも、ヘルパーの魅力についても話していただき、まだまだ分かっていない事が多い私にとって、とても勉強になりました。

隠し立てのない暮らしの中で生き抜く力を見抜き、直接関わられるのはヘルパーなんだと再確認できました。又、色々な方々と接すると自分自身が鍛えられるのは事実だと思いますが、私にとっては、実践するには厳しいと思いました。

『今の制度ではヘルパーをする人がいなくなり、このままでは国が減びてしまう』この言葉がとても印象的で心に刺さりました。

・ヘルパーとして支援に入っている利用者側の考えが『家政婦』の仕事として見られている現状もあることが、とても悲しいことだと思います。その人の今までの暮らしぶりや生活信条からくる考え方によるものだと思うも、やりきれなさはぬぐえないです。

今回の研修はとても勉強になり、普段聞けないお話をたくさん伺えて良かったです。

・ヘルパーとして長年されてきた中で感じたこと、利用者さんとの関わりを通して思っていた事などを聞いて共感するところもありました。

ヘルパーとしての権利やこれからのあり方を考えさせられました。

・大変勉強になりました。介護士の立場の低さや支援者の方からのリクエストや暴言などありました。そんなこともありながら、自分の気持ちをクリアーにすることが大変でした。研修によって気持ちが楽になりました。介護職の立場の向上を祈るだけです。藤原さんは、とても穏やかな方で、お話を興味深く聞けました。